

# 八尾歴史物語

二二巻

（えきちか（駅近）古墳発見！東郷遺跡）

大阪府内で古墳といえは、世界遺産候補の古市・百舌鳥古墳

群が有名ですが、八尾市内にも、国史跡心合寺山古墳や高安千塚古墳群をはじめ多くの古墳があります。現在、山すそでは約300基以上が、市街地の平野部でも約200基以上の古墳が発掘調査で確認されています。今回は、平野部で見つかった古墳のうち、駅から近いものについて紹介します。

近鉄八尾駅の改札を出て右側の陸橋を歩いていくと、西武百貨店の隣に文化会館があります。この施設は、八尾市の芸術文化の拠点として昭和61年に建てられました。事前の発掘調査では、古墳時代の初めごろ（3世紀後半〜4世紀初頭）の古墳が7基発見されました。これらは一辺10mぐらいの四角い形の古墳で、墳丘を取り巻く溝の中からお墓に供えら



出土した古墳 (写真上部は西武百貨店)

れた甕や壺などの土器が見つかっています。

これらの古墳が造られたのは、ヤマト王権が成立した時代で、大和盆地南東部の纏向遺跡（現在の奈良県桜井市付近）の地に、これまでにない規模の巨大な前方後円墳である箸墓古墳が造られた時期でもありません。

この時代の八尾は、河内湖といわれる湖が上町台地の東側に広がり、この湖に注ぐ河川が形成した肥沃な土地に多くの集落が営まれていたことが、東郷、中田、久宝寺などの遺跡の発掘調査から分かってきました。文化会館建設時の発掘調査で出土した古墳は、東郷遺跡付近で集落を営んだ人々のお墓であったと考えられます。これらの古墳を現在見ることはできませんが、近鉄八尾駅の噴水広場の東側には、東郷遺跡についての説明板が立てられています。